

現状と復興に向けた課題等

<現 状>

○津波常襲地帯としての岩手三陸

岩手県の三陸地域は、昔から幾度も津波に襲われ、明治三陸地震津波以降の約100年間の全国における大津波犠牲者（約47千人）の6割（約27千人）が岩手県に集中

○歴史文化遺産としての高田松原

高田松原は、約350年前に形成された人工林で、幾多の津波被害を受けながらも世代を超えた保全の取組により不毛の地を自然環境に恵まれた豊かな地に変えてきた長い歴史をもつ

○復興シンボルとしての奇跡の一本松

高田松原に自生していた約7万本の松の中から奇跡的に生き延びた一本松は、「希望の松」や「ど根性松」として悲嘆に暮れる東北の被災地域全体に希望と勇気を与える復興のシンボルとしての存在

<復興に向けた課題等>

○津波防災文化の国内外への発信

津波犠牲者の鎮魂と追悼、今次の津波被害の記録と教訓を後世に伝承し、津波防災の文化を国内外に情報発信していく場が必要

○歴史文化遺産の高田松原の再生

歴史を刻む松原と一体の潟湖を含めたゾーンを平成の高田松原として再生し、全国の歴史文化遺産と言えるその価値を継承していくことが必要

○勇気と希望を与える復興のシンボルを実現

長い年月を要する復興の過程を可視化し被災者に勇気と希望を与える復興のシンボルとして、「奇跡の一本松の命の継承」と「高田松原の再生」が必要

【参考】高田松原再生に向けての市民レベルの取組み

- ・高田松原を守る会…奇跡の一本松の保護と高田松原再生の取組（4月～）
- ・陸前高田ロータリークラブ…メモリアル・マガジン「高田松原ものがたり」作成（6月）
- ・「桜ライン311」実行委員会設立…津波の到達点を桜の木でつなぎ後世に（11月）
- ・著名人の活動等…やなせたかし（CDと絵本製作等）、新井 満（散文詩集「希望の木」発行）、瀬戸内寂聴（青空説法）等

要 望 内 容

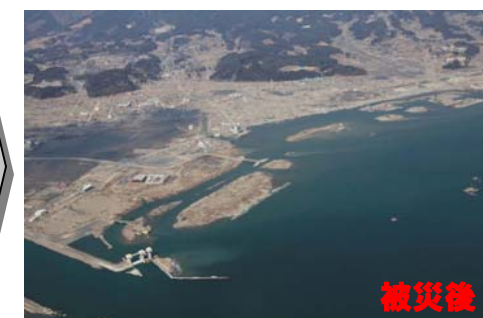
国営メモリアル公園の整備

東日本大震災津波の記憶を未来に語り継ぎ、津波防災の文化を国内外に発信する拠点として、全国を代表する津波常襲地帯である岩手三陸の地にあって、津波防災の歴史文化遺産といえる高田松原と復興のシンボルである奇跡の一本松を擁する**岩手県陸前高田市の高田松原地**に**国営メモリアル公園**を整備すること

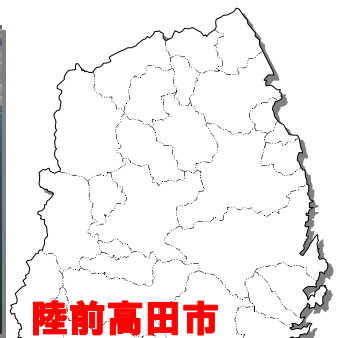
被害状況



被災前



被災後



陸前高田市

陸前高田市震災復興計画（案）



奇跡の一本松



国営メモリアル公園のイメージ

